

特集

日本型 MPH 教育の軌跡と展望

公衆衛生専門職を目指す！生かす！

Master of Public Health (MPH) の学位を授与するわが国初の公衆衛生専門職大学院が、2000 年に京都大学に設立されてから 20 周年となりました。少子高齢化やグローバル化のもと、人々の健康、医療、環境に関わる課題は多様化、複雑化しており、俯瞰的・システムの思考が求められる社会情勢などを背景として、その後も九州大学や東京大学などに公衆衛生専門職大学院が設置されました。国内にはこれらの専門職大学院のほか、MPH の学位を授与する一般大学院も相次いで設置されています。

MPH 教育においては、MPH に求められるコンピテンシー(高い能力を発揮する人が持っている資質や行動特性)を定め、これを育成するコンピテンシー基盤型教育が求められています。海外の MPH 教育機関ではこれが進んでおり、わが国でも日本型 MPH コンピテンシーの確立と、これを目標とした MPH 教育をどう実施するかが喫緊の課題となっています。

大学院を修了した MPH 取得者は、公衆衛生のさまざまな分野で活躍することが期待され、MPH 取得を目指す公衆衛生専門職も増加しています。その一方で、MPH 教育の現状については、保健所等で活躍する公衆衛生専門職に十分知られていないのも事実です。わが国の MPH 教育の現状と成果(MPH 取得者の進路、活躍状況など)について比較し広く周知することは、公衆衛生専門職が MPH 取得を目指し、自らの能力を一層向上させる上でも有用と考えます。

そこで本号では、MPH 教育を行う大学院の現状、教育の課題、そして今後の方向性について、MPH 教育機関を俯瞰する視点および各教育機関からの報告を組み合わせ整理し、わが国における MPH 教育の全体像を理解するとともに、今後の公衆衛生専門職の人材育成の在り方を展望することとしました。

〔川上憲人(東京大学大学院医学系研究科教授)、「公衆衛生」編集委員会〕